



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 対象読者
 - 2.3. 本書の構成
- 3. FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 について
 - 3.1. 機能概要
 - 3.2. 機能の使用手順
- 4. ジョブ・ジョブネット情報
 - 4.1. ジョブ
 - 4.2. ジョブネット
- 5. 変換仕様
 - 5.1. 変換対象アイテム
 - 5.2. 共通仕様
 - 5.3. 文字列共通
 - 5.4. 複数行文字列
 - 5.5. 期間
 - 5.6. チェックボックス／ラジオボタン
 - 5.7. リッチテキストボックス
 - 5.8. 見出し
 - 5.9. 横線／縦線
 - 5.10. 正方形／長方形
 - 5.11. イメージ

変更年月日	変更内容
2025-04-01	初版
2025-10-01	第2版 下記を追加・変更しました。 ■ 「 変換後のファイル形式はV6.5.8となります 」のファイル形式に関する注意を削除

本書の目的

本書では IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform Formaフォーム→IOD変換（以下 FullPack版 Formaフォーム→IOD変換）の機能概要、および、変換時の仕様について説明します。

対象読者

次の利用者を対象としています。

- FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 を利用して、IM-FormaDesigner for Accel Platform のフォームからIODファイル（単票形式 IODOC の帳票レイアウトファイル）を作成する方

なお、FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 を利用するためには、IM-FormaDesigner for Accel Platform の機能や仕組みを理解している必要があります。

IM-FormaDesigner for Accel Platform の詳細については、IM-FormaDesigner for Accel Platform のドキュメントを参照してください。

本書の構成

- [FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 について](#)

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 の概要について説明します。

- [ジョブ・ジョブネット情報](#)

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 のジョブ、および、ジョブネット情報について説明します。

- [変換仕様](#)

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 の変換仕様について説明します。

機能概要

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 は、IM-FormaDesigner for Accel Platform で作成したフォームを、IODファイル（単票形式 IODOC の帳票レイアウトファイル）に変換する機能です。

IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform の1機能として、ジョブにて提供します。

コラム

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 は、帳票レイアウトを新たに作成する手間を省略するための、補助的な機能です。

注意

変換後のIODファイルの見た目について、フォームとの完全な互換性を保障するものではありません。

座標やスタイル等の細かい部分については、IM-FormaDesigner for Accel Platform にて事前に調整、または、変換後にクライアント版帳票デザインツール IODOC にて調整してください。

機能の使用手順

1. 「サイトマップ」 - 「テナント管理」 - 「ジョブ管理」 - 「ジョブネット設定」をクリックします。
2. ジョブネット一覧から「IM-PDFDesigner」 - 「Formaフォーム→IOD変換」をクリックします。

ジョブネット管理

カテゴリ新規作成 ジョブネット新規作成 ジョブ管理 ジョブネットモニター

ジョブネット一覧

IM-BIS
IM-ContentsSearch クローラ
IM-FormaDesigner
IM-FileExchange
ジョブ管理
IM共通マスタ
IM-Workflow
多要素認証機能
IM-PDFDesigner
Formaフォーム→IOD変換
テナントマスタ
ViewCreator/TableMaintenance

ジョブネット情報

基本情報

ジョブネットカテゴリ IM-PDFDesigner
ジョブネットID pdfd-jobnet-forma2iod
ジョブネット名
日本語 Formaフォーム→IOD変換
英語 Forma Form→IOD Convert
中国語 (中国) Forma表单→IOD转变

ジョブネットの説明

実行時の情報

並列実行 ☐ 並列実行を許可する

実行ジョブ

ジョブID	ジョブ名
pdfd-job-forma2iod	Formaフォーム→IOD変換

3. 「編集」をクリックします。

実行時の情報

並列実行

☐ 並列実行を許可する

実行ジョブ

ジョブリスト

ジョブID	ジョブ名
pdfd-job-forma2iod	Formaフォーム→IOD変換

実行パラメータ

パラメータリスト

キー	値
appld	
fontName	
formId	
marginLeft	
marginTop	

トリガ設定

日時指定

繰り返し指定

営業日指定

即時実行

編集

削除

4. 実行パラメータに値を入力し、「更新」をクリックします。



コラム

実行パラメータの詳細については、「[実行パラメータ](#)」を参照してください。

実行ジョブ

+ ジョブを追加 - すべて削除

ジョブリスト

ジョブID	ジョブ名	削除
pdfd-job-forma2iod	Formaフォーム→IOD変換	

実行パラメータ

+ パラメータ追加 - すべて削除

パラメータリスト (追加後にクリックして入力してください)

キー	値	削除
appld	sample_ringi	
fontName	M S ゴシック	
formId	5i0sn7fu883af9j	
marginLeft	20	
marginTop	20	

トリガ設定

日時指定

新規登録

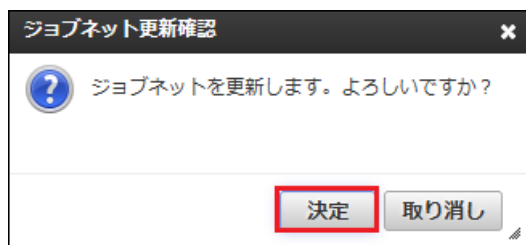
日時指定

繰り返し指定

営業日指定

更新

5. 「決定」をクリックします。



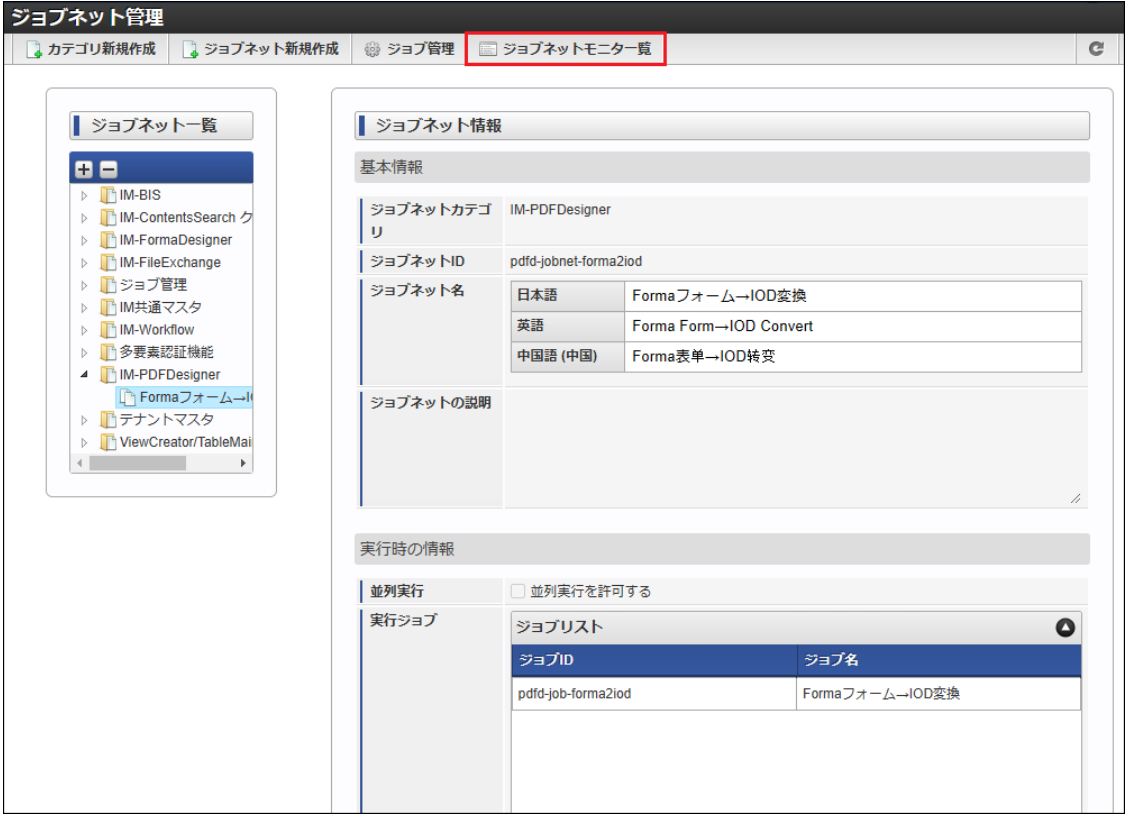
6. 「即時実行」をクリックします。



7. 「決定」をクリックします。



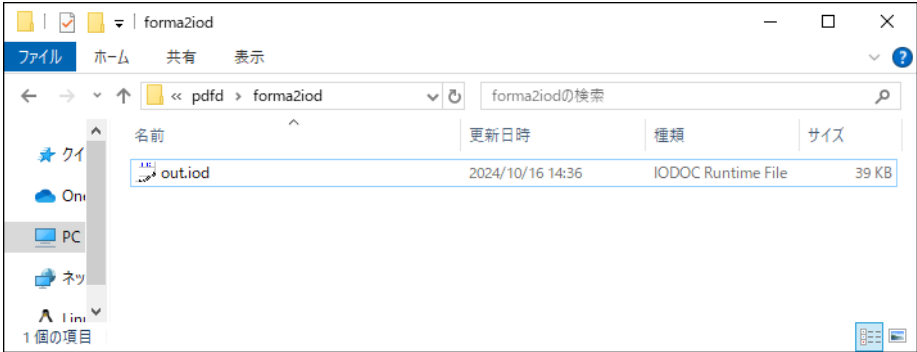
8. 「ジョブネットモニター一覧」をクリックします。



9. 実行結果を確認します。



変換に成功した場合、実行パラメータ < outPath > に指定した先に IOD ファイルが出力されます。



エラーが発生した場合、「ジョブネットモニタ詳細」画面にエラーメッセージが表示されます。
エラーメッセージの内容に従い修正等を行ってください。

ジョブネットモニタ詳細

←

⌂

モニタ詳細 (intra-martAPP:10.0.75.1:52001729056637045)

ジョブネット

トリガ

ステータス

開始日

終了日

メッセージ

Formaフォーム→IOD変換 (pdfd-jobnet-forma2iod)

即時実行 (MT_2jico7m4dhfp)

エラー

2024/10/16 14:46:59

2024/10/16 14:46:59

更新

タスク一覧

▲

タスクID	ジョブ	ステータス	開始日	終了日	メッセージ
0	Formaフォーム→IOD変換	エラー	2024/10/16 14:46:59	2024/10/16 14:46:59	JSON ⇒ IOD変換ジョブでエラーが発生しました。 詳細はログを確認してください。

◀ ▶

実行中パラメータ

▼

再実行

ジョブ

ジョブ概要

- IM-FormaDesigner for Accel Platform のフォームを、IODファイルに変換します。

実行パラメータ

- このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブを使用するジョブネットです。

[ジョブネット](#)

ジョブネット

ジョブネット概要

- IM-FormaDesigner for Accel Platform のフォームを、IODファイルに変換します。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	名前	必須	デフォルト値
appld	アプリケーションID	必須	
fontName	フォント名		IPAゴシック
formId	フォームID	必須	
marginLeft	左の余白		0
marginTop	上の余白		0
outPath	IODファイル出力先	必須	

appld

キー名 アプリケーション
 ID

変換対象のフォームが格納されているアプリケーションIDを指定します。

アプリケーションIDは、次の方法で取得することが可能です。

- 「アプリケーション一覧」画面から取得（「サイトマップ」 - 「Forma管理画面」 - 「Formaアプリ作成」 - 「アプリ一覧」）

アプリケーション一覧

アプリケーション登録

アプリケーション検索

カテゴリ検索

カテゴリ未登録

編集	アプリケーションID	最新バージョン	アプリケーション名	備考	対象ロケール	アプリケーション種別
	sample_addresses_chg	1	【サンプル】住所等変更届	IM-Workflow連携の申請書サンプル	日本語,英語,中国語 (中国)	IM-Workflow
	sample_app_equipment	1	【サンプル】備品管理(v8)	購入申請で利用できる備品を管理します。	日本語,英語,中国語 (中国)	標準
	sample_bihin_mochidashi	1	【サンプル】備品持出申請書	一覧選択アイテムを利用した一般的な申請書サンプル	日本語,英語,中国語 (中国)	IM-Workflow
	sample_enquete	1	【サンプル】アンケート	コピー機についてのアンケートサンプル	日本語,英語,中国語 (中国)	標準
	sample_enquete1	1	【サンプル】受講アンケート	研修受講者向けアンケートのサンプルです。	日本語,英語,中国語 (中国)	標準
	sample_keireki	1	【サンプル】業務経歴書	明細アイテムの複数個配置したサンプル	日本語,英語,中国語 (中国)	標準

1ページ中 1 ページ目 15 8件中 1 - 8 を表示

- パブリックストレージ上に保存されているフォーム・データのフォルダ名から取得

<%PUBLIC_STORAGE_PATH%>/forma/form/<%アプリケーションID%>/<%フォームID%>/<%フォームID%>.json

fontName

キー名 フォント名

固定文字、識別子、文字枠に設定するフォントを、次のフォントから1つ指定します。

- IPA明朝
- IPAゴシック
- BIZ UDMincho
- BIZ UDGothic
- MS 明朝
- MS ゴシック

パラメータのキーが存在しない、または、指定された値が空の場合は「IPAゴシック」となります。



注意
上記以外のフォントが指定された場合は、サポート対象外です。



注意
PDFファイル作成時に、帳票レイアウトファイルに指定されたフォントが対象サーバにインストールされていない場合、環境に応じた「ゴシック体」の代替フォントが適用されます。
基本的には、次のフォントが適用されます。

- Windows : MS ゴシック
- Linux : IPAゴシック

formId

キー名 フォームID

変換対象のフォームのフォームIDを指定します。

フォームIDは、次の方法で取得することが可能です。

- テーブル「imfr_m_form」にてフォーム名が一致したレコードから取得

```
SELECT form_id FROM imfr_m_form WHERE form_name = '%フォーム名%';
```

- テーブル「imfr_m_form_relation」にてアプリケーションIDが一致したレコードから取得

```
SELECT form_id FROM imfr_m_form_relation WHERE application_id = '%アプリケーションID%';
```

- パブリックストレージ上に保存されているフォーム・データのフォルダ名、または、ファイル名から取得

```
<%PUBLIC_STORAGE_PATH%/forma/form/<%アプリケーションID%>/<%フォームID%>/<%フォームID%>.json
```

marginLeft

キー名 左の余白

帳票レイアウトの左の余白を指定します。

指定した余白分、変換後のIODオブジェクトの座標が右方向に調整されます。

パラメータのキーが存在しない、または、指定された値が空の場合は「0」となります。

marginTop

キー名 上の余白

帳票レイアウトの上の余白を指定します。

指定した余白分、変換後のIODオブジェクトの座標が下方向に調整されます。

パラメータのキーが存在しない、または、指定された値が空の場合は「0」となります。

outPath

キー名 IODファイル出力
先

変換したIODファイルの出力先を相対パス、または、絶対パスにて指定します。

相対パスは、パブリックストレージのルートパスを起点としたパスを指定してください。

コラム

上記IODファイルの出力先と、次の機能での帳票レイアウトファイルの保管先を合わせることで、FullPack版 Forma フォーム→IOD変換 で出力したIODファイルを、次の機能のファイルツリーから直接選択することが可能です。

- FullPack版 Web版帳票デザインツール イントラマート連携
- FullPack版 IM-LogicDesigner 連携

ジョブ

- このジョブネットが使用するジョブです。

ジョブ

変換対象アイテム

IM-FormaDesigner for Accel Platform の画面アイテムのうち、変換対象の画面アイテムは次の通りです。



コラム

本書では、変換後のオブジェクト構成が文字列と同じ画面アイテムは「文字列共通」とカテゴライズしています。

画面アイテム名	画面アイテムタイプ
文字列共通	文字列
	product_72_textbox
	数値
	product_72_number
	関数
	product_72_func
	日付
	product_72_calendar
	一覧選択
	product_80_itemSelect
	一覧選択（互換用）
	product_72_itemSelect
	セレクトボックス
	product_80_selectbox
	セレクトボックス（互換用）
	product_72_selectbox
	リストボックス
	product_80_listbox
	リストボックス（互換用）
	product_72_listbox
	ユーザ選択
	product_72_userSelect
	組織選択
	product_72_departmentSelect
	組織・役職選択
	product_72_departmentPostSelect
	所属組織選択
	product_72_affiliationSelect
	採番
	product_72_formaAutoNo
複数行文字列	product_72_textarea
期間	product_72_terms
チェックボックス	product_80_checkbox
チェックボックス（互換用）	product_72_checkbox
ラジオボタン	product_80_radio
ラジオボタン（互換用）	product_72_radio
リッチテキストボックス	product_80_richtextbox
見出し	product_80_header
横線	product_72_horizontalrule
縦線	product_72_verticalline
正方形／長方形	product_72_shape
イメージ	product_72_image

共通仕様

画面アイテムは変換時に細分化し、複数のIODオブジェクトとして配置します

画面アイテムは変換時に細分化し、複数のIODオブジェクトとして配置します。

画面アイテムごとの変換後のオブジェクト構成については、「[文字列共通](#)」～「[イメージ](#)」を参照してください。

フォーム・データが保存されているJSONファイルを基に変換します

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 は、フォーム・データが保存されているJSONファイルを基に変換します。

そのため、アイコン画像、スクロールバー、プルダウン、CSSなどJSONファイルに保存されていない情報については、変換後のIODオブジェクトに反映しません。

IODオブジェクトの座標は、画面アイテムの座標を基準に設定します

IODオブジェクトの座標は、画面アイテムの座標を基準に設定します。

画面アイテムの設定値は、単位変換せずにそのままIODオブジェクトの値として使用します

画面アイテムの座標、ラベル幅、フィールド幅、フォントサイズなどの単位はピクセルですが、IODファイルでの単位はポイントです。

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 では、画面アイテムの設定値を単位変換せずに、そのままIODオブジェクトの値として使用します。

例えば、画面アイテムのフォントサイズが10ピクセルの場合、変換後のIODオブジェクトのフォントサイズは10ポイントとなります。

フォームの画面アイテムの重なり順に、変換処理を実施します

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 では、フォームの画面アイテムの重なり順に、変換処理を実施します。

そのため、変換後も、本来のフォームと見た目的には重なり順が一致します。

変換後のファイル形式はV6.5.8となります

インストールされている 連携エンジン IOWebDOC のバージョンに関わらず、変換後のIODファイルのファイル形式はV6.5.8となります。

ファイル形式を変更する場合は、クライアント版帳票デザインツール IODOC にて変更してください。

変換後の用紙設定は固定となります

変換後のIODファイルの用紙設定は、次の固定値となります。

- 用紙サイズ：A4
- 用紙方向：縦

コラム

フォーム上に配置された変換対象の画面アイテムは、全て変換します。

そのため、仮に用紙設定の範囲外に画面アイテムが配置されていたとしても、変換し、IODオブジェクトを配置します。

変換後のラベルの文字列は左寄せとなります

画面アイテムのラベルの文字列は、変換後、画面アイテムの座標を基準に左寄せで配置します。

識別子の書式のバイト数は、次の計算式で算出します

識別子の書式のバイト数は、次の計算式で算出します。

バイト数（小数点以下切り捨て）＝フィールド幅 / (フォントサイズ / 2)

**コラム**

リストボックスについて、フィールド幅が未設定の場合はアイテム固有のルールを適用します。

詳細については、「[文字列共通](#)」-「[データの定義／データソース](#)」を参照してください。

**コラム**

チェックボックス／ラジオボタンのバイト数は、固定値となります。

詳細については、「[チェックボックス／ラジオボタン](#)」-「[識別子の書式](#)」を参照してください。

識別子名には、画面アイテムのフィールド識別IDを設定します

識別子名には、画面アイテムのフィールド識別IDを次のように設定します。

- チェックボックス／ラジオボタンの識別子：「%フィールド識別ID%_ナンバリング」
- 上記以外の識別子、および、文字枠の名前：「%フィールド識別ID%」

変換後に反映する表示スタイルの設定は、次の通りです

画面アイテムのプロパティ設定の表示スタイルにて、変換後のIODオブジェクトに反映する設定は、次の通りです。

カテゴリ	設定項目
ラベルスタイル	フォントサイズ／文字色／太字／斜体／下線／背景色
フィールドスタイル	フォントサイズ／文字色／太字／斜体／下線（※1）／背景色／枠線／枠線色
横線／縦線	太さ／色
正方形／長方形	枠のスタイル（一部のみ）／枠の太さ／枠の色／背景色

※1：チェックボックス／ラジオボタンのみ反映します。

**注意**

一部の画面アイテムでは、表示スタイルの適用範囲や変換後の見た目などが異なります。

詳細については、「[文字列共通](#)」～「[イメージ](#)」を参照してください。

「iAP UIデザインモード」は反映しません

次の理由のため、画面アイテムのプロパティ設定にある「iAP UIデザインモード」は、変換後のIODオブジェクトのデザインに反映しません。

- JSONファイルに保存されている情報は、モードの有効無効の設定のみ
- モードが有効の場合、デザインがユーザのテーマに依存する

画面アイテムの設定状態によって、次の初期値がIODオブジェクトに適用されます

画面アイテムの設定状態によって、次の初期値が変換後のIODオブジェクトに適用されます。

設定項目	初期値	適用条件
フォントサイズ	12	フォントサイズが未設定、または、「0」が指定されている

設定項目	初期値	適用条件
色	黒	色（背景色除く）が未設定、または、色の設定項目が存在しない
線幅	0	線の太さの設定項目が存在しない

単票形式 IODOC では線幅が「0」でも線が表示されます

画面アイテムの線の太さが「0」の場合、フォーム上では線が非表示となります。

しかし、単票形式 IODOC では「0」も有効な値として扱われるため、線幅が「0」でも線が表示されます。

文字列共通

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）		IODオブジェクト
ラベル[前／後]（※1）	文字列	固定文字
	背景	ボックス（※2）
	下線	直線（※3）
フィールド	入力欄	識別子
	枠線（※4、5）	ボックス／直線
	背景	ボックス（※2）

- ※1：対象の文字列が未設定の場合、関連するIODオブジェクトは配置しません。
- ※2：背景色が未設定の場合、ボックスは配置しません。
- ※3：下線が未設定の場合、直線は配置しません。
- ※4：枠線は設定値によってオブジェクト構成が次のように異なります。
- 枠あり：ボックス
 - 枠なし：配置なし
 - 下線のみ：直線
- ※5：枠線の設定項目がないリストボックスは、「枠あり」としてボックスを配置します。

表示スタイル

- セレクトボックス、所属組織選択は、フィールドのフォントサイズの設定項目がありません。
- そのため、変換後の識別子のフォントサイズは、次の固定値となります。
- セレクトボックス：「13」
 - 所属組織選択：「12」

データの定義／データソース

リストボックスのフィールド幅が未設定の場合、画面アイテムの「データの定義」、または、「データソース」タブの設定状態によって識別子の書式のバイト数が異なります。

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 では、次の値を基に1文字につき全角2バイト、半角1バイトとしてバイト数を設定します。

「データの定義」タブ

- 項目の定義の表示値が設定されている場合 : 表示値の中で最大の文字列の長さ
- 項目の定義の表示値が空、または、項目が未定義の場合 : 文字列"プロパティ設定値"の長さ

「データソース」タブ

- 値の取得元が「プロパティ設定値」の場合
 - 項目の定義の表示値が設定されている場合 : 表示値の中で最大の文字列の長さ
 - 項目の定義の表示値が空、または、項目が未定義の場合 : 文字列“プロパティ設定値”の長さ
- 値の取得元が「データソース設定値」の場合 : 文字列“データソース設定値”の長さ



枠線や下線の幅は、識別子の書式を基に設定します。

リストボックスの行数

- リストボックスのフィールドは、プロパティ設定で設定した行数分の高さでフォーム上表示されますが、変換後は1行分（フォントサイズ分）の高さになります。

複数行文字列

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）		IODオブジェクト
ラベル（※1）	文字列	固定文字
	背景	ボックス（※2）
	下線	直線（※3）
フィールド	入力欄	文字枠
	枠線（※4）	ボックス／直線
	背景	ボックス（※2）

※1：対象の文字列が未設定の場合、関連するIODオブジェクトは配置しません。

※2：背景色が未設定の場合、ボックスは配置しません。

※3：下線が未設定の場合、直線は配置しません。

※4：枠線は設定値によってオブジェクト構成が次のように異なります。

- 枠あり：ボックス
- 枠なし：配置なし
- 下線のみ：直線

期間

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）		IODオブジェクト
ラベル／セパレータ（※1）	文字列	固定文字

画面アイテム（細分化）	IODオブジェクト	
	背景	ボックス（※2）
	下線	直線（※3）
フィールド[始／終]	入力欄	識別子
	枠線（※4）	ボックス／直線
	背景	ボックス（※2）

※1：対象の文字列が未設定の場合、関連するIODオブジェクトは配置しません。

※2：背景色が未設定の場合、ボックスは配置しません。

※3：下線が未設定の場合、直線は配置しません。

※4：枠線は設定値によってオブジェクト構成が次のように異なります。

- 枠あり：ボックス
- 枠なし：配置なし
- 下線のみ：直線

チェックボックス／ラジオボタン

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）	IODオブジェクト	
ラベル（※1）	文字列	固定文字
	背景	ボックス（※2）
	下線	直線（※3）
フィールド	入力欄	識別子
	表示値	固定文字（※4）
	背景	ボックス（※2）
	下線	直線（※3）

※1：対象の文字列が未設定の場合、関連するIODオブジェクトは配置しません。

※2：背景色が未設定の場合、ボックスは配置しません。

※3：下線が未設定の場合、直線は配置しません。

※4：フィールドの固定文字については、「[データの定義／データソース](#)」を参照してください。

表示スタイル

- チェックボックス／ラジオボタンのフィールドスタイルは、変換後、識別子には反映せず、フィールドの固定文字にのみ反映します。

データの定義／データソース

画面アイテムの「データの定義」、または、「データソース」タブの設定状態によって、フィールドの固定文字が異なります。

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 では、次の値を基に固定文字を設定します。

「データの定義」タブ

- 項目の定義の表示値が設定されている場合：表示値の文字列
- 項目の定義の表示値が空の場合：固定文字を配置しない
- 項目が未定義の場合：文字列”プロパティ設定値”

「データソース」タブ

- 値の取得元が「プロパティ設定値」の場合
 - 項目の定義の表示値が設定されている場合：表示値の文字列
 - 項目の定義の表示値が空の場合：固定文字を配置しない
 - 項目が未定義の場合：文字列”プロパティ設定値”
- 値の取得元が「データソース設定値」の場合：文字列”データソース設定値”

識別子の書式

- チェックボックス／ラジオボタンの識別子の書式は、「X(2)」の固定値となります。

リッチテキストボックス

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）		IODオブジェクト
ラベル（※1）	文字列	固定文字
	背景	ボックス（※2）
	下線	直線（※3）
フィールド	入力欄	文字枠
	枠線（※4）	ボックス／直線

※1：対象の文字列が未設定の場合、関連するIODオブジェクトは配置しません。

※2：背景色が未設定の場合、ボックスは配置しません。

※3：下線が未設定の場合、直線は配置しません。

※4：枠線は設定値によってオブジェクト構成が次のように異なります。

- 枠あり：ボックス
- 枠なし：配置なし
- 下線のみ：直線

表示スタイル

- リッチテキストボックスは、フィールドのフォントサイズの設定項目がありません。
そのため、変換後の文字枠のフォントサイズは、「13」の固定値となります。
- リッチテキストボックスのツールバーは、変換後のIODオブジェクトには反映しません。

見出し

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）	IODオブジェクト
ラベル（※1）	文字列 固定文字

※1：文字列が未設定の場合、固定文字は配置しません。

表示スタイル

- 見出しのデザインは、変換後のIODオブジェクトには反映しません。見出しの文字列のみ変換します。
- 見出しは、フォントサイズの設定項目がありません。

そのため、変換後の固定文字のフォントサイズは、次の固定値となります。

見出しレベル	フォントサイズ
1	14pt
2／3	13pt
4／5	12pt

横線／縦線

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）	IODオブジェクト
線	直線

表示スタイル

- 線を太くした場合、フォームとIODファイルとで、線の広がる方向が次のように異なります。

IODファイ		
線の向き	フォーム	ル
横線	下方向	上下両方向
縦線	右方向	左右両方向

- 変換後のIODオブジェクトの線の終端には、「デフォルト」（丸まった見た目）を設定します。

正方形／長方形

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）	IODオブジェクト
四角形	ボックス

表示スタイル

- 枠のスタイルは、次のように変換します。

枠のスタイル	IODファイルでの線種
none	枠線無し
dashed dotted	破線
上記以外	実線

- 枠線を太くした場合、フォームとIODファイルとで、線の広がる方向が次のように異なります。

	IODファイル
フォーム	枠
内方向	内外両方向

イメージ

オブジェクト構成

変換後のオブジェクト構成は、次の通りです。

画面アイテム（細分化）	IODオブジェクト
イメージ	イメージボックス

サポート対象の拡張子

- サポート対象とする画像ファイルの拡張子は、次の通りです。
 - .png
 - .jpeg
 - .jpg
 - .gif

画像ファイルが取得できない場合

- 画面アイテムのプロパティ設定として画像ファイルの指定は必須です。

しかし、指定した画像ファイルを変換時に取得できない場合、空（画像ファイル未指定）のイメージボックスを配置します。

PDFファイル作成時に画像ファイルを埋め込む場合は、クライアント版帳票デザインツール IODOC にてイメージボックスの
名前（識別子名）を設定してください。